

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント学分野	修了年度	平成 29 年度
氏名	渡邊 由実	指導教員 (主査)	林 慶子

論文題目	看護師教育に対する看護師長の認識と行動 ～教育的側面と管理的側面に関連する要因～
------	---

本文概要

目的 新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務化となり、知識や技術の標準化となるガイドラインが作成され、新人看護師教育がおこなわれている。看護師長は、担当する一看護単位でどの程度の看護師教育への認識や行動をしているか、教育的側面と管理的側面に関連する要因から明らかにする。

方法 全国の病院リストから 200 床以上の同意を得られた 82 病院の 883 名の看護師長に自記式無記名式質問紙調査法を行なった。属性 (12 問) と自作質問項目の教育的側面 (15 問) と管理的側面 (22 問)、中規模病院の看護管理者におけるコンピテンシー評価尺度で調査した。統計処理は統計パッケージ「IBM SPSS.V.24」を用いて因子分析と相関分析、カイ 2 乗検定を行った。

結果 回収率は 54.5%。482 名より回答があり、有効回答 464 名であった。教育的側面は 3 因子【院内教育推進行動】【現場教育実践行動】【自己研鑽行動】、管理的側面は 5 因子【適切な業務遂行】【経営意識行動】【病床管理】【スタッフ管理】【労働環境調整力】が抽出された。各因子の Cronbach の $\alpha = .700$ 以上は、教育的側面因子の 3 因子と管理的側面因子の第 1・第 3 因子であった。自作質問項目の教育的側面と管理的側面においては、各下位尺度間の正の相関を認め、有意な相関が認められた ($p < .01$)。

特に、相関係数が高かったのは教育的側面第 1 因子【院内教育推進行動】と管理的側面第 1 因子【適切な業務遂行】の相関であった。【院内教育推進行動】では、プリセプター選定・指導、人材育成、学習への支援であり、【適切な業務遂行】では、問題対応行動、安全管理、目標管理である。また、自作質問項目と中規模病院の看護管理者におけるコンピテンシー評価尺度では高い相関が認められた。

考察 看護師教育に関する看護師長の教育的側面と管理的側面が高い相関関係にあることが明らかになった。看護師長の担当部署での教育方針の決定と看護スタッフへの周知、新人看護師の個人能力に応じた段階を追った現場実践教育を可能にするためには、担当部署での教育体制の整備が必要であることが示唆された。

先行研究では、看護師長の業務遂行状況において、年齢が高く、看護師長の経験年数が多いほど看護師長の業務遂行度は高い傾向にあり、本研究においても同じ裏付けの結果であった。また、病棟看護師長の役割認識に関する研究で【教育的役割行動】は、他の役割に対して最後まで独立した役割として認識されていたという報告をされているが、本研究では教育と管理は管理業務の中で関連づいた行動をしていることに相関関係が認められ、教育担当経験のある看護師長において有意な結果が得られた。

本研究は 1 看護単位を担当する看護師長 464 名の調査報告として、研究者が捉えた看護師教育に対する看護師長の認識と行動の研究結果であり、調査をしていない看護師長の特性や相関関係は不明であるため、今回の調査結果で要因を明らかにできたと言及するには限界がある。看護師教育の推進のために、看護師長の【院内教育推進行動】を、臨床実践の場で検証していくことが今後の課題である。

結論 教育的側面因子・管理的側面因子との相関が高く反映された質問項目は尺度として有効ではないかと推測された。看護師長は看護師長歴と経験年数が長く、さらに教育担当を経験することで教育計画の認識や人材育成への計画的行動がとれることが示唆された。

キーワード 看護師長、看護師教育、コンピテンシー